

# 映画『THRIVE』の文字起こし

『天下泰平～ 滝沢泰平 公式ブログ ～』より

私は、フォスター・ギャンブル。

地球上の大きな苦しみと貧困の原因を追究することに人生のほとんどを費やしてきました。研究をしていくと思ってもよらない発見がありました。最初は無関係に見えたものが、実は密接につながっているということが解ったのです。

私はある法則を見つけました。昔から美術やシンボルに組み込まれてきた自然の中のパターンです。この法則が生活様式を一変させる、クリーンで持続可能な新エネルギー源の鍵を握っているのです。

宇宙が作ったものは永続的ですが、人間が作ったものは持続しません。そこで私は宇宙がどのように生命を作りだし維持するかを知れば役に立つと考えました。



$V = 2 \pi^2 R r^2$  (トーラス)

トーラスのエネルギーは一方から流れ込み中央を回ってもう一方の端から出てきます。トーラスは均衡を保ち自ら調整し常に完全です。私が初めてトーラスを知ったのは科学者で発明家のアーサー・ヤング（ベル・ヘリコプター的设计者）からでした。

トーラスは自然がすべての規模において使う基本的な型であると未来学者のデュエイン・エルジンは説明します。

進化は展開、繰り広げるといふことです。そこで問題は宇宙が展開しているのは何か、それは自己組織化システムで、すべての規模において観られます。自己組織化システムとは、自己を本質的に理解し自己を本質的に理解し管理している体系を指す専門用語です。自然の中に入ると至る所にこのような自己組織型の形状が観られます。

- ・ リンゴやオレンジなどの断面や
- ・ たつ巻の動的性質の中にも観られます。
- ・ 他には地球を取り巻いている磁場もそうです。
- ・ 人間の周りも同じような磁場があります。
- ・ うず巻銀河全体の構造にも観られますし、
- ・ 小さな原子の構造もそうなんです。



宇宙はトーラス製造工場なのです。

太陽系が銀河系の一部であり、それは星団の一部に属していて、さらにそれは超星団の一部に属していることを理解していくと、我々は果てしなく続く無限のトーラスの流れを旅しているということになるのです。



トーラスは宇宙の呼吸のようなものです。エネルギーの流れはあらゆる規模でトーラスの形をとります。しかし流れの調和の根本には骨格のような構造があるのです。それは「ベクトル平行体」です。20世紀の偉大な思想家、「バックミンスター・フラワー」の造語です。

先見性のあるフラワーの業績に触発され、私は何十年もベクトル平行体とトーラスを研究しました。トロイド型のエネルギー形状の可能性に取りつかれた私は、その型を研究して応用への道を探るため1997年にセコイア・シンポジウムというガクサイ（シンクタンク？）を共同で設立しました。研究を重ねた結果、トーラスとベクトル平行体は基本の型であり、あらゆる規模で宇宙の創造の根本をなしていることを確信しました。セコイア・シンポジウムでトーラスの働きを応用し燃焼無しでエネルギーを作り出す装置を発明したという発明家のことを知りました。

ゼロ点エネルギーまたは放射エネルギーやフリーエネルギーと呼ばれるものを利用する、この画期的な開発は今ではニューエネルギー技術と呼ばれています。世界の苦しみの多くはエネルギーを利用できないことが原因なので無料で無限に使えるエネルギーがあれば歴史上の大発見になると思いました。世界中で生活の質を向上させるだけでなく一変させるかもしれません。そこでこの型、つまり強力な潜在的エネルギー源について知っている人が他にいないかと思うようになりました。

トーラスが様々な文化で何千年にもわたって記号化されてきたことをシンポジウムの科学者が教えてくれました。古代文明では後世にもっとも残りやすい形でこの法則を組み込んでいたのです。物語、シンボル、文字、建造物等です。



ここは世界最古の聖地のひとつ、エジプト、アビドスのオシリス神殿です。オシリス神殿では文字がほとんど発見されていませんが、この神殿には非常に重要な情報が一つ残されています。



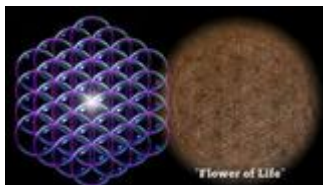
非常に薄いですがはっきり見える正確な図です。岩に刻み込まれているわけではありません。彫られているわけでもありません。それはある驚くべき方法で岩の原子構造に焼き付けられているのです。



ナッシム (Nassim Haramein) はオシリス神殿のシンボルを3次元で解読しました。この世界は2次元ではないので、この世界についての情報を伝える記号も平面に限られません。ナッシムによる3次元版のシンボルは完全に均衡のとれたベクトル平行体で12本の等しいエネルギー線が放射状に広がっています。この線は車輪のスポークのように中心を固定しています。この構造の周りを流れるエネルギーの基本形がトーラスです。



これを少し展開して四面体ともいうピラミッドを計64個置きます。それぞれのピラミッドを取り巻くトロイドのエネルギーを表す球体を置いてピラミッドを除くとマトリクスができます。



これはオシリスのシンボルとぴったり重なります。何千年も前にエジプトの神殿の壁の岩に焼き付けられたものと同じパターンの三次元モデルです。

今度は大陸を渡ってエジプトから中国に行きましょう。同じ図形が1420年に建設された聖地に見られます。太陽の神が宿るといふ紫禁城に入るとその門には獅子がいます。獅子は地の守り神で、地を前足で押さえて守っています。

64 個のエネルギー単位をもった同じ図形が記号化されています。まったく同じ模様が、別の大陸にある重要な場所に見られるのは単なる偶然だろうかと思いましたが、不思議に思いました。ナツシムは 64 を元にした図形が世界中で何世紀にもわたって繰り返し記号化されていたことを教えてくれました。ヘブライのカバラにおける「生命の樹」も同じ構造を持っていてベクトル平行体がすべてのレベルに組み込まれています。

古代中国の「易経」という思想体系は「六十四卦」に基づいています。これは 6 本の線を 1 組とするシンボルで線は実線と破線があります。この線を四面体の 6 本の辺としてまとめると全部で 64 の四面体をもつ結晶が出来上がります。現代の科学研究にも同じパターンが見られます。二重螺旋には人間の DNA を記号化するのに使われる 64 通りの「コドン」があります。何千年も前の人々は、どうやって宇宙の生命の図形に関する高度な知識を得たのでしょうか？

古代エジプトやマヤ、インカの物語では太陽神が地球に来て工学や文字、科学のすべてを教えたと言われていました。私は太陽神が銀河系の別の場所から来た高度文明なのではないかと思いました。多くの古代文化では太陽神が空飛ぶ船に乗ってやって来たと言われていました。

研究により思いがけない事が解り、私は衝撃を受けました。ナツシムは理論を裏付ける見事な証拠を上げました。3000 年以上前に高度な数学と物理学の概念があったことを合理的に説明するには、これしかありません。

私は「地球外生命センターの創立者であるスティーブン・グリア博士」に辿り着きました。政府や軍の目撃者に数多くのインタビューをした大変造詣の深い人物です。



地球外知的生命体について語る時、それは人類のような知覚を持ち合わせ、さらに技術力や社会的能力が発達し、ほかの星や惑星に移動できるようにまでなった文明を持つ生命体のことです。銀河系には知的生命体が存在する地球のような惑星が控えめに見積もっても 1 万個以上あり、その半分以上が人類と同じか、それ以上の高度な文明を持っている可能性があります。

MIT (マサチューセッツ工科大学) やカリフォルニア工科大学で現在教えられている以上の宇宙の法則を習得して時空を超えて惑星間の膨大な距離を即時に移動できるというような知的生命体がいることは、ほぼ確実です。物体が着陸して物理的な証拠を残したケースが 4,000 件以上解っています。パイロットのケースも 3,500 件以上あります。



UFO が存在する証拠はたくさんありますが、中でも非日常的な現象で私をいつも驚かせるものは世界中に出現する、いわゆるミステリーサークルです。渦巻を基調とした複雑な模様が穀物畑

に出現する不思議な現象で、茎が押し倒されていますが枯れてはいません。30 か国以上で 5,000 個以上の「ミステリーサークル」が出現しましたが殆どはイギリスでした。

マスコミでは誰かが夜にこっそり仕掛けたいたずらであるという説が多数を占め私も最初はそう信じて いました。もちろんヤラセはありましたが人間の手で作られたものは圧倒的多数の美しいサークルと比べると雑です。5,000 個のサークルすべてが人のいたずらだったのでしょうか？

わずかな人数でロープと板を使って、このような複雑で美しいものを真夜中に激しい雨の中で土に足跡を残さずに造れるのでしょうか？ミステリーサークルが出現した場所の電磁場は静電的に帯電している場所が多く、奇妙な磁性粒子が散乱している場所もあります。



特に驚くべきミステリーサークルのひとつは円でなく長方形で 1974 年に宇宙に送られたメッセージ(アレンボ・メッセージ)に対する「直接的な回答」だと思われます。このメッセージは無線信号で送信されたもので太陽系の中の地球の場所と地球の人を表現していて、地球外知的生命体がこれを受信して解読してくれることを狙ったものでした。



27 年後の 2001 年にこの模様がイギリスに出現、そこには送信者の自画像とともれる絵が描かれて いました。

このメッセージは NASA が送った信号の形式と一致し別の太陽系、送信者の絵、人間のものではない DNA、マイクロ波のアンテナが描かれていました。これは送信者たちが通信に使用するものとみられ我々が使う無線アンテナとは違います。このアンテナの記号は、その 1 年前に全く同じ畑に出現しています。NASA が最初の通信に使ったのと同じ無線アンテナのすぐそばです。

NASA は今でも地球外生命体との接触を正式に否定しています。しかし毎年のように素晴らしい模様が出現しています。これはどんな意味があるのでしょうか？





ミステリーサークルと古代の記号が一致していることが解った私は、誰が造ったとか、どこから来たのかはさておき、これらの模様には重要な目的があると思いました。本当にピッタリなのです。トーラスとベクトル平行体のパターン、特に64個のピラミッドの結晶体は、宇宙でエネルギーがどのように機能しているのかを教えてくれていて、我々がそれに調和するように促しているのだと思うようになりました。これらはクリーンで安全なエネルギーを無限に利用する方法と新しい推進方法のモデルを示しているのです。

これ以上に重要なメッセージがあるでしょうか？

彼らの視点から見ると人類は今、軽々しく宇宙に手を伸ばそうとしているのではないのでしょうか？

この考えはジャック・キャッシャー（Jack Kasher）博士にあって更に裏付けられました。博士はネブラスカ大学の元物理学教授でUFO現象も研究しています。博士はセコイア・シンポジウムの発表で、宇宙人の飛行物体に招かれて入ったというレイン・アンドリュースという女性を書いた、驚くべき絵を示しました。



私は驚きました。その詳細な絵はトロイドのエネルギー場を示していて、それは宇宙船を推進させ、要員を保護していたというのです。

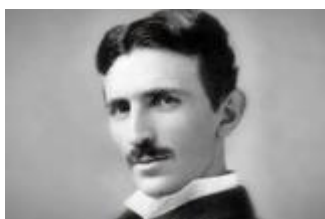
私はその後、ジェームス・キリガンドに話を聞きました。ジェームスはワシントンのアダムス山に近い牧場から撮影したUFOの映像を多数持っています。また宇宙船に乗ったと主張しています。ジェームスはレインに会ったことがなく、その体験も知らなかったのに回転する光の環を伴うたくさんの宇宙船という驚くほど似た現象を見たと言いました。

ジェームスとレインが同じトーラスの動きを描写したこと、そして二人とも政府や軍から大がかりな嫌がらせを受けていることは単なる偶然でしょうか？

UFOの話など馬鹿げていると思う人もいますが、別の視点から見ると完全に納得がいきます。これは現在の人類のシステムにとって大きな衝撃です。この世代の人々、政治的リーダーを目指す人々などがその問題に決して近づこうとしないのは世界観に疑問を投げかけられるからです。これは世界観を根本的に問うものです。

我々人類といえば比較的未熟な種であり自滅の可能性に苦しんでいます。トーラスへの調和がクリーンで安全な新しいエネルギーの鍵を握っているとすればどうでしょう？これは現代で最も重要な、画期的な技術となるかもしれません。

では無限で自由に使えるエネルギー源を、誰が嫌がるでしょうか？  
これは実は重要な質問で、次の未知への旅のきっかけになりました。



科学者は1900年代初期から、すでに燃焼せずに電気を取り出せる方法を開発していました。ニコラ・テスラは放射エネルギーを発見したと考えましたが、これは今でいうフリーエネルギーであったと考えられています。しかしテスラが研究を完成させる前に、融資していた銀行家のJPモルガン（モーガン）は手を引きました。モルガンは電線に使われる銅を独占していたのですが、テスラの発明によって電線がなくても送電できてしまいます事に気がついたのです。テスラは研究所を焼き払われ、つまはじきにされました。無限のエネルギーをみんなのために実現しようとしただけに・・・



現代の発明家、「アダム・トロンプリー」はテスラの研究とトーラスの可能性にヒントを得て発電機を作りました。それは空気から電力を取り出す直流発電機でした。惑星の磁場をまねてこの装置を回転させることで発電機を作れることを実証しようとしていたのです。発電は成功しました。自然とか惑星あるいは宇宙空間で回転する地球のような発電機というのは基本的には空間を回転している磁石で、磁力線は流れ落ちて中を通り、トロイド状の磁場を作ります。また収縮を繰り返し息をしています。文字通り宇宙からエネルギーを取って変換しているのです。このトロイドの中に地球全体を一変させるエネルギーが入っています。これは仮説ではなく本当のことです。ということは地球上のどの場所でも突如として電力が得られ、誰もが電力を使える、世界中で電力が豊富になるのです。トロンプリーは国連や米国上院に招かれて発電機の実演をしたのですが、最初のブッシュ政権の時に妨害され、発電機も政府の強制捜査で押収されてしまいました。このような体験をしたのは彼だけでなく、フリーエネルギーの分野で新技術を発明した人のほとんどは弾圧されたと語っています。



発明家、ジョン・ベディーニは数十年前にテスラの放射エネルギー理論の研究を開始し、運転に必要なエネルギーより多くのエネルギーを生み出す様々な充電装置を開発しましたが、低価格でこの装置を売り出すことを発表したとたんに研究所で襲われ、装置を製造しないよう警告されました。ベディーニは自らの安全の為、装置の販売を断念しました。



これらはすべて私が訪れた研究室の装置です。映像の質が悪いので納得はしていただけないかもしれませんが専門家と一緒に、発明家と実際に会ってニューエネルギー装置が動いているところを見て、私はこの技術が本物であると確信したのです。これは大きな可能性を秘めた素晴らしい技術です。



カナダのジョン・ハチソンはフリーエネルギー装置を発明しただけでなく、テスラの理論を使い引力に逆らって物を浮き上がらせました。これは推進力の分野を一変させるでしょう。ハチソンの研究は78年、89年、2000年に警察と政府から強制捜査を受け装置が押収されました。

この映画用にインタビューする予定だった科学者にユージン・マドフ博士がいます。博士はMITとハーバード出身のエンジニアでニューエネルギー分野の理論的、技術的發展を扱うインフィニットエナジー社の編集者でしたが2004年に何者かに殴り殺されています。

この発明家たちが愉快犯やペテン師だったら、何故みんな同じように弾圧されるのでしょうか？  
この技術がなぜ弾圧されるのか？

UFO現象は関係あるのか？

クリーンエネルギー発明家のアダム・トンプリーに聞きました。



高い地位にある軍人が自らを危険にさらして本当のことだと語っています。

軍産複合体がそれを言わせたくないのは何故か？

その背後にどんな技術があるか考え始めるからです。

そこが肝心な点です。



UFO現象の隠ぺいは、いわゆるフリーエネルギーの弾圧と密接な関係があるのです。エネルギーが身の回りの空間から抽出されればメーターで測定することが出来ません。世界最大の産業であるエネルギー産業にとっては直接の脅威となります。



エクソンモービルは不要、石油も不要、石炭も不要、電線による送電も不要、すべて終わるので

す。ただそれは、200兆ドル入った誰かの貯金箱のようなものです。石油、ガス、石炭の確認埋蔵量の価値は200兆ドルを超えます。

この情報が明らかになれば地理的、数字的な権力に決定的な変化をもたらし、それは有史以来最大のものとなるでしょう。そしてその変化は一世代のうちに起こるのです。

私はこの画期的な発明について調べ始めました。これらの概念は世界中の数多くの研究室で証明されているにもかかわらず、たいてい日の目を見ていないのです。

この新しい技術は物を激しくぶつけて燃焼をコントロールしようとするのではなく、自然と一緒にダンスをするような融合が鍵となります。フリーエネルギー装置に共通するのはトラスエネルギーの形を真似ているということです。

フリーエネルギー装置を信じなくとも、理想や発明の弾圧は憂慮すべきです。

石油や石炭、原子力など汚染まき散らす技術を正当化するには、より優れた代替手段はないと主張するのが一番だと思うようになってきました。



妻でクリエイティブパートナーのキンバリーが、この研究が人類に与える影響を考えるよういつも促してくれました。

トラスや地球外生命体やフリーエネルギーも面白いですが一番の関心は、これが解れば人類の苦しみを和らげることが出来るのかということで、実際できることが解ったのです。地球上の苦しみの多くはエネルギーが利用出来ないことと関係しています。暖かく過ごせるか、食べ物や水は手に入るか、医療を受けられるか、どれもエネルギーを利用できるかに関係があります。こうすれば進化が能率的になると納得できる基本的なパターンがあって、そのパターンに調和でき、これらの問題を解決する新しい技術を生み出せるなら、タブーとされていることに心を開く価値があると思います。

ニューエネルギー技術が解き放たれると世界は大きく変化するでしょう。そしてすべての人、すべての場所に影響が及ぶのです。この技術は世界史上もっとも重要な出来事です。



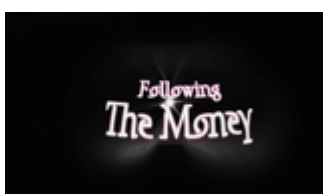
そこで私は疑問を呈しました。

科学技術を弾圧することで利益を得ているのは誰なのか？

クリーンなエネルギーの利用によって富と権力が脅かされるのは誰なのか？

一握りの人が富を持ち大多数が貧困に苦しむようにする動機があるのは誰か？

独立した研究者である私は調査報道の鉄則「話がおかしいと思ったら金(カネ)を追え！」に従いました。



エネルギー会社は世界が石油に依存していれば今後も莫大な利益を得られます。代替エネルギーを阻止し、世界の石油資源を支配し、石油価格を高く維持することに巨額の資金を注ぎ込んでいます。独占を脅かすものを弾圧する、多大な資金と影響力を持っています。

では巨大企業の背後には誰がいるのでしょうか？



ロックフェラー石油王国は1870年、ジョン・ロックフェラーがスタンダードオイル社を創業しアメリカ初の億万長者となって誕生、同社はその後エクソンモービル等に姿を変えています。

ロックフェラー家は食糧も支配し世界の農業を、石油を使う大規模農業へと転換させた中心的存在です。60年代、70年代のいわゆる「緑の革命」を思い出します。当時は私も多くの人と同じようにいいことだと思っていました。しかし、それは広大な土地に1種類の作物を植えて石油系肥料や農薬を大量に使うものでした。

緑の革命はロックフェラー財団の自然科学部門が農業関連の大企業と手を組んで考案したものです。石油による農業は石油産業に新たな巨額の利益をもたらしましたが、飢餓をなくし健康を増進するという謳い文句は実現しませんでした。

緑の革命では、目先の生産に土を使い切るため(?)、当初は生産性が向上したように見えたのが近年になりそのツケが回ってきました。

巨額の税金が巨大な農企業に補助金として使われ、家族経営の小規模農家はほぼ姿を消し、生物多様性が破壊され有毒な化学物質が農業従事者の健康を蝕み、土地、水、食べ物を汚染し皆の健康を脅かしています。



「2010年現在、世界の約7人に一人は食糧を十分に得られないのです。工業化された化学農業をもたらした巨大企業は食品供給過程を統合する3つの手段を編み出しました。1つは支配の手段としての遺伝子組み換えです。もう1つは支配の手段としてタネ、生命の特許化し、タネは私有財産であると宣言し、農家によるタネの保存を知的財産の窃盗として犯罪扱いすることです。3つ目は普通の人々、農家、生産者がタネを保存する自由を奪う、いわゆる自由貿易条約です。一握りの企業に、さらに依存させるためにタネのできないタネを作り出すターミネーターテクノロジーはこの最終段階です。人間は歴史上初めてタネによる新たな植民地化を行っているのです。これは将来に対する植民地化です。」



エネルギーと食糧という2つの非常に重要な分野で、同じ少数のエリート銀行経営家族とその企業が支配してきた影響は壊滅的なものでした。私はこのような支配力の独占を知って最初は困惑しましたが、大変だが治る病気にかかっていることを知るように重要なことだと思いました。が、直すことが目標なら原因と仕組みを理解することが大事です。

そこで調査を進めました。

巨大な銀行経営一族の支配力は石油と食糧以外にどこに現れるのか、お金の流れを追っていくと、生活のほぼ全般に同じ支配のパターンが見え始めました。そして同じ少数の家族が直接的に銀行や企業を通じて、または間接的に大規模な財団を通じて、いつも支配権を握っているのです。

ロックフェラー族はカーネギー財団、後にはフォード財団からの援助を受けて全米教育協会(幼稚園から大学までの教職者や教育関係者を網羅する米国最大の教育者団体)を設立しました。彼らの目的は、従順でおとなしい労働者となるよう教育し、管理しやすい労働者や、消費に熱心な消費者を作り出すことでした。



(ジョン・テイラー・ガット John Taylor Gatto)

「学校は権威への反応を習慣づける場所です。だから12年かかるのです。権威者の命令には反射的に(考えることなく)反応しなければならないのです。」

教育と同様、健康も大金と大企業が支配する分野です。

例えば、ロックフェラー族は、米国医師会の資金の大部分を提供し、それによって医師会の研究と意思決定に影響を及ぼしています。



(ジョン・ロビンズ John Robbins)

「医学生は4年間の間に通常2時間半(週?)の栄養学の授業を受けますが、使用される教材は全米酪農協会、全米家畜食肉委員会、砂糖協会など、健康を損なう食品を売ろうとする団体から提供されています。」



(ディパック・ Chopラ Deepak Chopra)

「残念なことに医療の制度上、医学教育は製薬会社から大部分の資金を受けています。そのため出来るだけ多くの医薬品を作って売ろうとする動機があるのです。医師、製薬会社、医学会全体がお金を手っ取り早く稼ぐのには最適な方法ですが、病気を治すための薬が、実際には問題を長引かせています。」

副作用としては吐き気、口の渇き、便秘・・・

重症となる場合もある白血球の減少、性的な副作用、下痢、吐き気、眠気、こん睡、または死・・・利益のためにどこまでやるのでしょうか？

フリーエネルギー技術と同じように治療法を弾圧するのでしょうか？

その答えは、残念ながら「YES」です。

ロイヤル・ライフ博士(Dr Royal Raymond Rife)の例をあげましょう。



ライフ博士は1920年代に当時としては最先端の顕微鏡を発明しました。癌やウイルスを破壊できる協調的共鳴という手法も開発しました。この治療法の臨床試験は1934年、16人の末期がん患者を対象に南カリフォルニア大学と提携して行われ、3か月以内に患者全員の癌が治りました。

その直後、ライフ博士の技術を試験している研究室が火事で焼け落ち、根拠のない訴訟が起こされました。米国医師会雑誌の編集長モリス・フィッシュバインの努力によってライフ博士は抹殺され、有望な研究はほとんど忘れ去られてしまいました。





「治療法を弾圧している人がいると考えるのは辛い事でした。私の家系には癌が非常に多いのです。全ての元凶は特許でした。

製薬会社が特許を得て利益を上げられる治療法、特に患者が使い続けなければならないような治療法が主流となり、そうでないものは話に聞くこともありません。ライフ博士だけではありません。

リン・ケース (Rene Caisse) はインディアンに伝わる薬の有効性を発見しました。

ハリー・ホクシー (Harry Hoxsey) とマックス・ガーソン (Max Gerson) は自然療法を開発しました。

しかし、医師会は全くのインチキだと言わんばかりです。

ここでお金を追うのが役に立ちます。医師会、そしてその研究と資金を支配する権力が医薬品も支配しているからです。特許が取れない治療法を弾圧する、巨額な金銭的動機が存在するのです。治療法の存在を知っても癌で多くの人を亡くした苦しみは無くなりませんが、苦しみを生きがいに変えていくことは出来ます。死ななくてもよいはずなのに亡くなった人、これから亡くなる人への思いを胸に治療法を開発して必要としている人達に届ければ、癌の遺産を断ち切って心を癒すことが出来ると思います。」



私は避けることのできない、この上もなくショックな結論に達してしまいました。エリート集団と彼らの経営する企業が実際に支配しているのは、エネルギーや食糧供給、教育、医療だけでなく生活の全ての側面なのです。この支配は金融支配によって行われます。価値を生み出すのではなく資金源を実際に支配するのです。お金を追っていくと(その流れの構造が)ピラミッドのようになっていることが解りました。



一番下は生活を日々営む一般の人々です。



その上は政府です。力の独占を許され、それを使って有無を言わせず課税し支配します。政府を支配するのは誰でしょうか？





次の階層は企業です。世界を現在支配しているのは国家ではなく企業だとよく言われ、これを企業統治体と呼んでいます。世界の資源を獲得し市場を支配するために企業統治体は低金利の資金の利用を必要としています。



大企業は大銀行から特別の金利で融資を受けることができます。つまり大手銀行を支配するお金持ちのエリートが最終的に企業を支配しているのです。お金の流れを追っていくと、お金に関する今までの考えがほとんど間違っていることが解りました。



(デヴィッド・イク David Icke )

「ごく日常のことには疑問を投げかけないのは面白い事です。例えば銀行に行って5万ドルとか5万ポンドのローンを申し込むと実際には何が行われるのでしょうか？殆どの方はボンヤリとしたイメージを持って日々を過ごしています。実際には5万ポンドのローンを申し込むと、銀行は5万ポンドと口座に書き込むだけなのです。コインやお札を造ったり貴金属を移動させたりするのではなくて、コンピューター画面で口座に5万ポンドと入力するだけなのです。その瞬間から、過去にも現在にも将来にも、まったく存在しないお金に利子を払い始めることとなります。」

銀行は金庫室に保有しているお金の約9倍を貸し出しています。これが可能なのは部分準備制度があるからです。この制度では連邦準備銀行や国の中央銀行が、銀行が保有する準備金の割合を決めることが法的に許可されています。米国では現在約10%です。

1万ドルを銀行に預けると銀行はその10%、1,000ドルをとっておいて残りのお金を貸し出します。たとえば別の人がその銀行を訪れ9,000ドルの車のローンを申し込むと、銀行はあなたの預金から9,000ドルを貸し出します・・・もう無くなってしまいました。

借り手は車の売り手にお金を払い、売り手は同じ中央銀行制度内の別の銀行にそれを預けます。この9,000ドルは新たな預金として扱われ、この過程が繰り返されます。預け入れと貸し出しを繰り返して最初1万ドルの預金が10万ドルになりました。銀行はあなたのお金を貸し出して9万ドルを作り出したこととなります。

これは金(キ)で取引が行われていた17世紀の金細工師から始まったようです。金(キ)は携帯するには重いので実物は金庫室に保管しておき、その受領書を取引していました。この受領書が最初の紙幣でした。一定の期間に金(キ)を引き出す人の数が限られているため、金庫室の所有者、現在の銀行は実際に持っているお金より多い受領書を発行するようになりました。

この受領書を貸し出して実際には持っていないお金、つまりは金(ｷﾝ)に対して利子をかけたのです。これが部分準備制度の始まりです。この制度では人々がせっせと働いてお金を稼がなければならないのに、銀行家は「無」からお金を作り出すことができます。

これは金融エリートが庶民より賢いからではなく、大多数の人を犠牲にし、自分に利益が入るように制度を不正に操作しているからです。

キャサリン・オースティン・フィッツ(Catherine Austin Fitts)はこの問題の専門家です。ジョージ・ブッシュ政権下で住宅都市開発庁次官補、クリントン政権下で顧問を務めました。



キャサリン・オースティン・フィッツ(Catherine Austin Fitts)

「モノポリーのゲームで、あなたがパークプレイスを買いたいとします。私はどんどんお金を印刷して自分のお金を増やし、貴方のお金の価値を下げます。あなたが一生懸命働いても、どんなに成功しても、私はただあなたを買収することが出来るのです。」

普通の人がお金を印刷すると偽造といわれ、銀行がお金を造ると通貨供給量の増加といわれるのは何故でしょうか？銀行はどうやってこの権力を得たのでしょうか？



ここはジキル島、1910年にロックフェラー家、ロスチャイルド家、モルガン家その他の銀行家の代表者がここで秘密の会合を開き、連邦準備制度を設立する法案を起草しました。

エド・グリフィン(G Edward Griffin)はジキル島でおこったことを本に書いています。



エド・グリフィン(G Edward Griffin)

「中央銀行というのは、その国の政府と提携している金融カルテルであり、国の貨幣供給において独占的権力を与えられています。これは提携に対する見返りとして政治家から贈られたプレゼントと言ってもよいでしょう。そのお返しとして、銀行は与えられた法的権限を行使し、政治が必要とあらば無からお金を造り出すことを約束するのです。」

2008年から有史以来最大の偽札印刷が行われています。金融上の巧妙な誤魔化しによってコストと責任の所在が隠され、人々はその支払いに追われる借金奴隷となります。連邦準備制度が造られた1913年と同じ年に「内国歳入庁」も設立されたのは意義深い事だと思います。

これによって所得税が創設され人々は政治家の借金を利子付きで銀行に支払わなければならなくなりました。



ビル・スティル(Bill Still)

「問題はアメリカの中央銀行制度は民間所有なのに政府が所有しているように見せかけていることです。ワシントンDC地区の電話帳で連邦準備銀行(FRB)を探そうとすると、青い政府機関のページに見つけることは出来ません。企業のページを見てみると FedEx(フェデックス:空路や地上で、重量貨物やドキュメントなどの物流サービスを提供する世界最大手の会社)のすぐ隣にあります。民間所有の中央銀行なのです。」



(テレビキャスターの質問)

「連邦準備銀行の議長とアメリカ合衆国大統領は、どのような関係が適切ですか？」



(グリーンズパン議長)

「まず第一に言えることは、連邦準備銀行は独立した機関ですので、基本的には我々が行う措置を覆すことのできる政府機関というのは、存在しないのです。」(・・・・・・???)



キャサリン・オースティン・フィッツ(Gatherine Austin Fitts)

「民間銀行が財務省の代わりに貨幣を印刷しています。連邦準備銀行は不足を生み出す負債ベースのシステムで貨幣を印刷していますが、内部の一部の人間が大衆の知りえない大量の経済データを入手できる立場にあります。経済の中の貨幣の動きに関するデータが理解できる少数の銀行家がいる、内部のものは守られるが、その他全員がお金を失っていくように貨幣を印刷することが出来るのです。」



現在の経済と違い、健全な経済とは均衡を保ち、自由に流れ、全体が生き生きしている「トールラス」のようなものとキャサリンは言っています。

このシステムは、とても力強く最適化しようとしているのですが、芯のところにサナダムシが絡まりついています。サナダムシが人間の体内で化学物質を放出すると、人間は自分にとっては良くないがサナダムシにとっては良いものを無性にほしくなります。全体を犠牲にして支配し、貪り食う寄生虫がいるわけです。

この経済はサナダムシ経済です。金融エリートが私たちが食べ物にしているのです。彼らは正体を暴かれることを嫌います。

キャサリンは政府トップレベルの腐敗を暴露し始めると、FBIがキャサリンの会社を強制捜査して資産を押収しました。キャサリンは裁判に10年間振り回され、結局「無罪」になりました。連邦準備銀行は通貨発行を独占する民間銀行ですが説明責任はなく、力を独占する「政府」にバックアップされています。

国は連邦準備制度が経済の安定に役立ち、政治的に中立を保つと思い込んでこれを受け入れました。しかし設立されて1世紀近くの間、連邦準備制度は正反対のことをしてきました。連邦準備制度が実権を握って以来、人々はインフレに苦しめられ、「ドル」の購買力は97%以上低下しました。

貧富の差を見れば、ごく少数がほとんどの「富」を持っていることは明らかです。

連邦準備制度が権力を握って以来、わずか16年で「大恐慌」が起きました。調査したところエリート銀行家は1929年の大暴落の前に株式市場から資金を引き揚げていました。大暴落の後、彼らはその資金を使って下落した株や破たんした小銀行を破格の安値で買い占めました。

このように富を集めた銀行家には、ロスチャイルド家、ロックフェラー家、モルガン家が含まれていました。



2008年の金融破たんでも同じようなシナリオが展開され、同じ銀行家が利益を得ました。

破たん前の数年間、バンクオブアメリカ、シティバンクグループ、チェースなどの大銀行とその支配者であるロスチャイルド家、ロックフェラー家、モルガン家は、いずれは破たんすると解っている不良債権を一括化し取引していました。

腐ったオレンジを箱に入れて最高の等級として売るようなものです。

不良債権を一括化した人々は自分で箱に詰めたのですから、誰かが箱を開けて中身に価値がないと気づくのは時間の問題だということは認識していました。

腐ったオレンジ、つまり不良債権や金融派生商品、「クレジット・デフォルト・スワップ」などが遂にばれると、すべての人が影響を受けました。人々は家、仕事、事業、老後の貯蓄を失いました。

その一方で、問題を引き起こした張本人である大銀行は救済されました。何故でしょうか？

大多数のアメリカ人は救済に反対だったのに、なぜ連邦準備制度は銀行に何兆ドルも投入したのでしょうか？なぜ助けが一番必要な人を助けずに、金融破たんの犯人を助けるのでしょうか？



調査したところ、連邦準備制度を造り出したロスチャイルド家、ロックフェラー一家、モルガン家がいまだに制度を支配していて、私たちを犠牲にして彼らは危機を脱したという考えに達しました。



ディック・ダービン(Senator Dick Durbin)

こうして造られた多くの銀行は、今も連邦議会を動かすもっとも強力なロビー団体です。2008年に経済が破たんしそうになったのは、大銀行が富と権力を集めるために計画し実行した、組織的な風説の流布による株価操作が原因だと、私は確信しています。

デヴィッド・アイクが連邦準備制度による景気循環操作について説明してくれます。



「第一段階は釣り糸を投げるのに似ています。この段階では大量の通貨を投げ込む、つまりは売買単位を流通させるのです。どのようにするかというと、金利を下げ てたくさん貸し付けるのです。これが循環の一過程である好況の段階です。数多くの売買単位が流通しているのでたくさん取引が行われ、経済活動が盛んになります。

それによって雇用が創出されます。消費がどんどん増えるにつれて需要も増えます。そうすると企業は生産を増やそうとお金の借り入れを 増やします。人々は日常生活に自信を持つようになります。私の勤める会社は受注が多くて景気がいい、私の仕事は安泰だ、よしもっと大きい家を買おう・・・

ここでやり方を変えるのです。

釣り糸を手繰り寄せるのです。つまり金利を上げます。そうすると借り入れをする人は減ります。しかし銀行からの借り入れの基準は以前より厳しく設定されることになります。また、金利が上がったのでその分、人々の収入から金利に払われるお金が増えることになり、物を買うお金の流通が減るということになるのです。突然以前のようにお金が流れなくなるので、その結果として当然買う量が減ります。企業の利益は減り始めるので企業は雇用の削減をはじめ、倒産する企業が出てきます。失業者が増えて、景気のいい時に買った大きな家の住宅ローンが払えなくなります。銀行は糸を巻き取っていきます。企業や個人が破産すると、銀行は画面上の数字による貸し付けに対する担保として差し出された不動産、土地、資源などの実質資産を手に入れることになるのです。釣り糸を出す、引く、貨幣を大量流通させる、かき集めるという景気循環は何世紀も続いています。お金が盗まれて集められ、世界の实質資産が一握りの人の手に渡っているのです。」

「私に一国の通貨の発行権と管理権を与えよ。そうすれば、誰が法律を作ろうと、そんなことはどうでも良い。」マイヤー・アムシェル・ロスチャイルド（1790年の発言）





国際レベルでは、中央銀行が世界銀行と国際通貨基金を利用して、借り入れ国の資源を搾取しながら稼ぎ、その過程で借り入れ国の経済を破綻させています。世界の中央銀行の中央銀行が、ロスチャイルドが創立した「国際決済銀行」です。エリート達は人々の生存に必要な、ほぼすべてを支配する地盤を固めています。



(デヴィッド・アイク)

「世界のどこに行っても、お金は銀行制度によって管理されています。人々が食べるか食べないか、誰が億万長者になって、誰が1日1ドル以下で生活するかを、銀行が決めるのです。「貨幣を制する者は世界を制す」ですが、貨幣を制する者は・・・わずかです。」

この時点で私の世界観は覆っていました。多くの人々の挫折や苦しみが、少数の人にとっては成功や満足となることに気づいて苦しみました。エリートの中央銀行家が、世界をだましてお金を造る許可を得たのです。莫大な富をすでに持っている彼らの最終段階、究極の目的はなんでしょうか？



私は、金融エリートの隠された目的は完全な世界支配であるという有力な証拠と、それを主張する信頼のおける専門家に何度も出会いました。最初は信じたくありませんでしたが、どんな事実が明らかになろうとも人類が力強く成長できない原因を見つけると決心していました。ある日の午前3時・・・私はある疑問に目を覚ました。少数の人間が、世界を支配したいとしたら何を支配する必要があるのか？私は飛び起きて書き出し始めました。何よりも、まず金融を支配すること・・・金融を支配すれば他はすべて管理できます。エネルギーの支配も必要です。大規模農業と世界貿易もすでに支配しています。世界の水の供給も買い占めています。医療も手に入れていて自然治療(法)を弾圧しています。人々から入手する情報の種類やその反応も支配しなければなりません。アメリカでは現在、最高の通信手段であるインターネットと草の根運動の管理や検閲は行われていませんが、その解放性はあらゆる方面から攻撃されています。政府、企業、国軍はどれも支配権を握ろうとしています。安全な支配の為には、反対意見の管理が必要です。人々の権利を奪い、一般市民を見張り、生活のあらゆる側面を監視しなければなりません。夜も明けてくる頃、私は権力を持ったエリートが世界支配の体制をほぼ整えているのだと確信し、独裁者が未来ではなく今ここに居るという恐ろしい事実を認識しました・・・どうしたら(この体

制から)出られるでしょうか？

私はその実態を見極めるため、支配構造とその仕組みを知ることが必要だと思いました。

比較的少数の家族、特にロスチャイルド、ロックフェラー、モルガン、カーネギー、そしてハリマン、シフ、ウォーバーグは何世紀にもわたって政府の支配階級のエリートの先頭に立っています。

このような家系の全員が世界支配の計画を知っているとか、計画に参加していると言っている訳ではありませんが、このような王朝の当主が多くの人々の暮らしを破壊する陰謀を実行する企業利権や金融利権を支配していることは確実です。

計画を秘密裏に推進している人々は多くの名前で知られています。流出した情報によれば彼らは世界中で密室の会合を開き、計画について話し合います。そして時計のような正確さでその計画が、メディア、金融、企業、政府、軍事の分野に登場し始めるのです。

もちろんグループの全員が意思決定に参加している訳ではなく、知識と参加の程度を決める序列が存在します。



支配エリートの主なシンボルの一つが、「すべてを見通す目」です。これは「1ドル札」、当初「全情報認知」と言われたアメリカの大衆管理システム、イギリスの情報機関「MI5」、そしてロスチャイルド家にすべての設計と資金提供が行われた「イスラエルの最高裁判所総合ビル」にも観られます。

(このシンボルは)クフ王のピラミッドの壮大な姿と伝説の金属製の頂点を取り入れ、頂点に立つものが下々全てを監視し、支配することが出来るという意味にこじつけたのだと思います。

これを利用した痛ましい例として「反ユダヤ主義」の推進があります。反ユダヤ主義者はこれを「ユダヤの陰謀」といって民族差別を続け、多くの人々の生活を脅かし命を奪いました。

これは決してユダヤの陰謀ではありません。中央銀行家たちが第2次世界大戦で両方の陣営に資金を提供し、ユダヤ人に対するヒトラーの残虐行為に関連する企業に資金を提供したことも確認されています。一族が代々必要とする以上の富を持ち、貨幣を造り出す権力を持っているこのような人々は富を最終目的としていないと思います。



(G エドワード・グリフィン)

「物欲をすべて満たした人は何を欲しいと思うのでしょうか？多くの人は権力・・・世界規模の権力を欲しがります。彼らは知的エリートとなり自分たちの計画が他の誰よりも優れていると考え始めたのです。彼らは、自由は危険だと考えています。大衆に自由を与えればどうなるか？どうせ賢い使い方はしないだろう・・・我々は一般大衆より賢いので彼らの為に支配してやろう・・・」

エリートが完全な世界支配を計画しているということに気付くと、彼らが大胆に、公然とそれ

を語るのを耳にするようになりました・・・ただし・・・「新世界秩序」という言葉を使って・・・



(ジョージ・ブッシュ＝パパブッシュ)

「成功した暁には、この新世界秩序の大きな可能性が開けます。」



(元英国首相 ゴードン・ブラウン)

「まったく異なる、新しい課題を持った新世界秩序です。」



(ハリー・アルフレッド・キッシンジャー 元米大統領補佐官)

「可能ですよ、素晴らしい機会となります。」

世界の状況を考えると新世界秩序は(一見)いい考えのようにも思えます。しかし一握りのエリートが単一世界の政府を動かす世界支配と、世界が相互に繋がるということは同じことでは有りません。現実には世界の人々は繋がりを持っていて、根本的なレベル、精神的なレベルにおいても繋がっているのです。しかし世界支配計画は、実は正反対です。これは、お互いに競争させる「分割支配(分割統治)」としての戦略で、民主党と共和党、あるいはリベラル派と保守派が、目指すものが最終的に同じなのに、どちらかが問題だと思わせるものです。

世界はわずかなエリートが権力を独占し、すべてのルールを作って支配する全体主義的な世界的権威というか、軍事独裁に向かっているのですこれが成功すれば逃げ場がありません。

考えてみてください。

陰謀論は、散々馬鹿にされてきたので検討するだけでも社会的に困難です。また、どのような出来事も、それだけをもっともらしく説明することは可能です。私も、同じ人間がいつも富と権力を得る結果になるのは、ただ機会を利用しているだけで、実際にこの状況を引き起こしている訳ではないと考えようとしていました。しかし、10年近くデータや情報を集めてきて、これは無作為ではなく、強大な力を持った少数の金融エリートの一族が、政治家や企業と組んで人々を管理し、支配することを共謀しているのだと・・・私は確信しています。この計画の実態と規模が解ると・・・どこまで探ろうかと自問しました。人間がどこまで悪になれるのかに焦点を合わせるのか・・・私は、彼らの正体と組織の仕組みを知る価値があると考えました。真実を理解した私たちは怒り、悲しむ一方で、はっきりと物事を考え、集中して効果的に取り組む力を持ってい

るからです。



(デビッド・イク)

「最大の監獄は、人からどう思われるかという恐怖心です。散々白い目で見られた私は、他人の目を恐れる心から飛び出しました。そうすることで初めて、なんと酷い牢屋に入っていたかに気付くのです。私は少数の人が大衆を支配するのが、いかに簡単かを自分なりに理解できるようになりました。社会的な規範、物事の善悪、何が道徳的で何が不道徳か、何が可能で何が不可能なのかを決めてしまえばよいのです。そして【問題なしゾーン】というものを作り上げます。そのゾーン内での認識、信念、言論、理想に沿って暮らす人は【普通】とみなされるので、誰かに煩わされることがありません。

この囲いから出て個性を主張し始めると、規範からはみ出したとみなされることになり、イルミナティにより(知らず知らずの内に)刑務所の看守に仕立て上げられた人間集団が、寄ってたかってはみ出した人たちを非難するのです・・・面白いことに言論と思想の問題なしゾーンの端にくると、世界銀行の総裁になんと言われるかとは思わないのです・・・母はどうか・・・飲み仲間や会社の人たちになんと言われるか・・・と考えるのです。イルミナティは(大衆がそうとは気付かないよう巧みに)規範を作り上げることによって、(各自が特に疑問とも思わずに)その規範をお互いに(無意識のうちに)強要する、一大集団を作り上げたのです。」

世界征服の大戦略は既に実行に移されています。管理がしやすいように世界が国境を越えた超国家に切り分けられています。「欧州連合」、「アフリカ連合」はすでに設立されています。アメリカ、カナダ、メキシコの政治家は「安全と繁栄のためのパートナーシップ」の名の元で、おそらく「アメリカ連合」と呼ばれる計画の北半分に取り組んできました。これは市民や議会の同意もないまま何年も続いています。「太平洋連合」も既に進められています。



これは世界専制政治の組織図で完全支配の構図を示しています。

ヨーロッパでもっとも大きな権力を持つ二人が単一の世界政府への動きについて語っています。



(Jean Claude Trichet ジャン=クロード・トリシェ 欧州中央銀行総裁)

「この新しい地球統治を自らのものとする上で、特に大西洋の西側では同じルールを同じように



実施することは極めて重要です。」



(EU. PRESIDENCY Herman Van Rompuy ヘルマン・ファン・ロンパウ 欧州理事会議長)

「2009 年は金融危機のさなか G20 が確立され、地球統治が始まった年でもあります。」

国際的には中央銀行の金融エリートが「世界貿易機関」、「世界保健機関」、「世界銀行」、「国際通貨基金」など政策実施のための巨大な組織を導入してきました。

ジョン・パーキンスはいわゆる「エコノミック・ヒットマン」としての長年の経験から銀行、企業、政府の共謀が世界中を乗っ取ってきた経緯を知っている人物です。



(John Perkins ジョン・パーキンス)

「使った手法は数多くありますが、もっともよく使った手法は石油のように企業が欲しがる資源を持った国に行って、世界銀行やその系列などの組織からその国への巨額な融資を手配するというものです。しかし貸し出された資金の大半はその国ではなく、ベクテルやハリバートン、ゼネラルモーターズ、ゼネラルエレクトリックといった米国企業の手に入り、その国に巨大なインフラを構築します。

富裕層の為の発電所、高速道路、港、工業団地などで、貧困層はその恩恵をほとんど受けられません。むしろ貧困層は巨額な借り入れ返済のツケをこうむります。教育、医療などの社会福祉に充てられるべきお金が借金返済に充てられるのです。意図的に国に莫大な負債が残るようになっています。すると【エコノミック・ヒットマン】が行って言うのです。

『こんなに借金がある・・・どのようにしても払ってもらうからな！』反米の大統領が選出されると、すぐに行きます。『おめでとうございます。私は大統領と御家族を大金持ちにしてあげることが出来ます。私たちの方法に従えば、このポケットの数億ドルは大統領のものであります。そうしないなら、もう一つのポケットには貴方の名前入りの弾が入ったピストルが入っています・・・選挙公約を守って、我々を追い出そうとしたときの為にね・・・アメリカの石油会社に石油を安く売るか、次の国連投票でアメリカに賛同するか、イラクなど、世界のどこかに米軍を支援する部隊を送ってください・・・』このようにして世界帝国を築き上げたのですが、そのことを実際に知っている人はほとんどいません・・・」

多くの人と同様、私も世界支配の陰謀なんか、実際には上手くいくはずがない、人間の能力はそれほど高くないと思っていました。高度な管理と機密性が必要な、このような計画をやり通せるはずがないと思っていました。





(キャサリン・オースティン・フィッツ)

「すべての政府が無能なせいだとするのは空頼みで、大きな誤りです。皆が理解していないのです。これはもちろん、本当は進む道が解っている体制にとっては都合のいいことです。体制は、進みたい方向に進むことに成功しています・・・」

私は、それほど大規模な腐敗の秘密が守られるのはどうしてか疑問でした。



(デヴィット・イク)

「構造が単純なのが鍵で、単純でなければ上手くいかないのです。これは区分されたピラミッドに例えられます。多国籍企業でも、大学や政府、秘密結社でも現代の組織は皆ピラミッド型の構造を持っています。CIAなどの情報機関には『必要な人にだけ開示する』というルールがあります。職務の遂行に必要な範囲だけの情報を知らせるというものです。貴方が銀行に行くとしましょう。底辺には銀行の窓口係りがいて顧客の対応をします。窓口係は背後の支店長の知っていることや話していることを知りません。知っているのは知る必要のあることだけです。事務室にいる支店長は次のレベルのことは知らず、そのレベルの人も、次のレベルのことを知りません・・・最終的には極わずかの人が銀行のピラミッドの頂点に立つことになります・・・銀行の本当の意図や方向性、その理由はこの人達だけしか知りません。第2次世界大戦で原子爆弾を開発したマンハッタン計画で動員された13万人が何も知らなかったのは、このような区分化が実行されていたからです。」

陰謀の意図と規模と初めて理解した時には、2週間くらいインフルエンザにかかっているような気分でしたが、だんだん解ってきました。人間の可能性を押しつぶそうとする、巧みに計画され、組織された企てにあっても、私たちの優秀さは発揮されると・・・組織的に関心をそらされ、制圧されても、人々は膨大な数の問題に対する、画期的で巧みな解決策を考えだしてきました。この陰謀がこれほど組織的で計画的だと気づかなかったのは、私たちの過失ではなく課題なのです。私は、支配階級のエリートが既にもたらした世界を見て、すべての場所のすべての人が完全に支配されたらどのような世界になるのかと考えました。新世界秩序では、私生活に踏み込む監視、暴力による反対意見の弾圧、借金奴隷制度によってごく僅かの人々が、すべての人々の生活を完全に支配します。想像してみてください。豊かな富を持つ小島が、悲惨さの海に囲まれているところを・・・そしてその島の軍隊は、持てるものを持たざる者から守ることを使命としているのです・・・彼らの最終目的は非常に不吉なものであり、計画を実行するためには手段を選ばないのだと思うようになりました。アメリカ人にとっては受け入れがたいことかもしれませんが、世界エリートの計画にはアメリカの経済力と主権の破壊が含まれていると、私は確信しています。言論の自由と武装反乱の歴史を持つアメリカは、世界支配の強化の大きな障害になっています。

国際エリートはアメリカ打倒に成功したら、アメリカ人の権力と生産力を単一の世界独裁政権に移譲しようと考えていると思います。デヴィット・アイクの言葉を借りれば「全体主義の忍び足で、少しずつ私たちの生活を乗っ取っていくのです・・・」彼らは、アメリカに返済不可能な巨額の債務を抱えさせています。ドルも暴落させて国際通貨基金の世界通貨に置き換えようとしています。キャッシュレスな電子世界通貨や圧力をかければ、中央権威は個人や集団の経済的能力を瞬時に奪うことができます。

現在、気候変動への対処のためと称して「国際税」が史上初めて提案されています。提案された条約は2009年コペンハーゲン気候会議で発表されたもので、トロイの木馬のように環境への人々の懸念に訴えています。この「前代未聞の炭素税」が「世界銀行に納付」され、「世界警察によって取り締まりが行われる」という事実から関心を逸らしています。汚染の削減は当然必要ですが、専制政治の税基盤を構築しなくても対策方法はあります。



(デヴィット・アイク)

「社会を変えたいのですが、あからさまだと拒絶反応がおきるのでこっそりやる訳です。問題、反応、解決の手順で行きます。第1段階～問題を造り出す、爆弾テロでも9.11でも、取り付け騒ぎでも、株式市場の大暴落でも、政府の崩壊でもいいのですが、誰のせいでこうなったのか、なぜ起きたのか、自説を他人に語ります。ここで報道をちゃんと行うメディアが存在すると、問題、対応、解決の手順は失敗します。しかし、主流メディアは事件の公式見解を伝える広報室となるのです。事件に関する大衆の唯一の情報源は主流メディアとなります。問題、反応、解決の第2段階は、激しい怒りと非常に大事な恐怖の反応を起こします。そして大衆が政府に訴えることを期待します。何とかしなれば・・・このままでは駄目だ・・・どうするつもりなのか・・・そこで第3段階。嘘の話に対する大衆の反応を収集して、自ら作り出した問題の解決法を正々堂々と提案します・・・」

悲劇的事件をでっちあげたり利用するという発想は、彼らが目的達成の為にどこまでやるつもりなのかを理解するうえで非常に重要なものでした。アメリカが偽りの口実でベトナム戦争に介入したのは裏付けのある事実です。ロバート・マクナマラ国防長官はトンキン湾での軍艦攻撃は実際にはなかったことを認めています。



(ロバート・マクナマラ)

「あの日、攻撃されたという判断は誤りで、攻撃はなかったのです・・・」

最近では、ブッシュ元大統領が存在しない大量破壊兵器を口実にイランを侵略しました。このような戦術は「偽旗(ニセ旗)作戦」とも呼ばれます。9.11は中東の石油を乗っ取り、憲法上守

られた保護規定を取り除く土台作りの為に世界エリートが引き起こした「偽旗作戦」だったと信じる人が増えています。警察国家に必要なものは、実はすでにほぼ整備されています。現在アメリカの政府は、警告や正当な理由もなく誰でも投獄することが出来ます。また、その行動が政府の計画を脅かすと判断すれば、合法的に誘拐、拷問、暗殺することが出来ます。いわゆる、対テロ戦争の容疑者として指名するだけでいいのです・・・監視は益々強化されています。2010年、国民を監視するカメラの数はアメリカだけで3,000万個有りました。デモ参加者は言論自由ゾーンという婉曲的な名前の場所に追いやられます。言論の自由（が法律で認められた権利）なのに自由に（言論する）場所を選べない・・・電話やメールはすべて収集して保管され、いつでも調査が可能です。運転免許やパスポートにはコンピューターチップが埋め込まれ、行動を逐一追跡できます。入院患者も同様なチップを皮下に埋め込まれています。実はこのチップを開発したのは「P&G」で当初は製品を追跡するのが目的でした。チップは役に立つものですがCIAの副長官（James Monnier Simon）ですら、「これは国民の追跡と管理を強化するために全国民にチップを埋め込む道を開いた」と認めています。



支配をたくらむ者たちは米国宇宙軍団を通じて「全領域支配」という計画をまとめました。高度な衛星監視、すでに開発済みの「指向性エネルギー兵器」やレーザー兵器は、反対者が地球上のどこにいても標的にすることが出来ます。

彼らは抵抗者への効果的な対処法を確実にしようとしているのです。流行病または社会的不安時の為と称し、連邦緊急事態管理庁（FEMA）の強制収容所や、拘束具付きの鉄道車両がアメリカ全土で、最近建設または改造されています。

世界支配計画についてお伝えしたい、もう一つの残酷な事柄があります。恐ろしい事実ですが、これなしでは真意の追及は不完全であり、解決のための戦略も不十分な情報に基づくものとなってしまいます。研究をする中で私は、世界の人口の大多数を抹殺することが計画に含まれているという説得力のある証拠を見つけました。不快感を覚えますが、支配する人間が少ない方が完全支配には有利だと考えれば理解できます。まさかこんなことはしないだろうと思うたびに、それが間違いであることが解ってきました。私は「優生学」が計画の中心的柱の一つであるという驚くべき文書を見つけました。「優生学」は、誰が子孫を残すのにふさわしく、誰がそうでないかを一部の人が決めるものです。断種はこの秘密計画を実施する狡猾な方法の一つです。

1904年、カーネギー家はロングアイランドのコールドスプリングスハーバーに有った初の優生学研究所に資金を提供しました。ロックフェラー家は優生学プログラムを通じて有色人種の強制断種に資金援助し、後にヒトラーに採用される人種（白人）至上主義計画を進めるために、ドイツのカイザーウィルフェルム研究所に資金を提供しました。



2007年には農務省と国土安全保障省が、700万人が住む北カリフォルニアの都市部で（薬剤を）

空中散布する計画に資金を提供しました。市民が団結して計画に反対すると当局は、散布される薬剤に病気を引き起こし生殖周期を乱す複数の毒素が含まれていることを洪々明かしました。市民の抵抗によって計画は運よく阻止されました。アメリカ政府は有毒な化学物質を使った実験を市民に対して秘かに30回以上行っていたことが明らかになっています。

兵士、囚人、アメリカ先住民族の居留地、そして町や郡全体にもです。ワクチンに秘密の物質を加えて秘密裏に行われる女性集団断種もブラジル、プエルトリコ、ニカラグア、メキシコ、フィリピンで明るみに出ています。これらは様々なプログラムの賛助を受けて行われました。例えばジョン・D・ロックフェラー人口評議会、健康教育福祉省、ネルソン・ロックフェラーが次官を務めていました。そしてロックフェラーが設立した世界保健機構、「ノバルティス」と「シンジェンタ」は米国農務省と国防総省と共同で遺伝子組み換えトウモロコシの実地試験を行いました。それは男性が食べると精子を殺して不妊にしてしまうというものでした。これは「世界の人口過剰問題の解決に貢献」と小さく発表されました・・・例を挙げればキリがありません・・・

現在世界では不妊が急増しています。これは決して偶然ではありません。

私が、全体像をつかみ直面する課題に十分な反応を得ることが出来たのは、直接的な人口減少計画について積極的に考察、調査したからこそだと思います。馬鹿馬鹿しいかもしれませんが、1932年のドイツで今後10年間に何百万人もの人が抹殺されると言ったら、(恐らく殆どの人が)そんなことを誰もする訳がないと言うでしょう・・・これが「人口減少計画」の姿です。私は決して誇張はしていません。間違っているかもしれません。でも・・・もし正しければ・・・私たちは進化の重要な分かれ道に来ています。一方の道の先には、専制政治と自滅が待っています。もう一方の道の先には、地球上すべての人の権利と自由を尊重する、平和で健全な文明が待っています。新しい方向への道を通れるようにするのは私たちです。「我慢できない！」と意思表示するときです。別の方法があるのです。私たちの知識と資源、そして解決策を合わせれば困難を乗り越えることが出来ます。



つづく・・・